

子どもをとりまく まちの環境から 考えてみるところ

特集

より多くの
利用者の視点で

バリアフリーとともに、今までは障害者や高齢者のことが中心でした。しかし「誰もが使いやすい」というヨニバーサルデザインの考え方では、もっと様々な利用者を想定しています。



子どもから考える 世田谷りスタイル

子育て環境をめぐる様々な課題

たとえば、子ども連れて外出する人が増えてきた結果、ベビーカーで乗りやすいバスや電車、子ども連れが入りやすいお店、トイレや授乳室なども増えてきました。

しかし一方で、公共交通機関でのベビーカーの利用に関する意識の差が顕在化し、「我が物顔で乗つている」「小さい子どもを連れて外出なんて非常識」といった声もあります。

公共交通機関にかぎらず、子どもの声がうるさいという理由で公園や保育園でのトラブルが起きた、といつたニュースも耳にしたことがあるのではないかでしょうか。

子どもと子育てをとりまく 環境から考えるUDスタイル

子育てに厳しい環境が気になる一方で、子育て中の人に支える動きも増えています。

『世田谷UDスタイル』第1号では

そんな動きの一端に触れながら、その動きをさらに広げていくために、一人ひとりができるることを探り、紹介します。

— ベビーカーは大切な命を乗せています —

ちょっと気づかう、そっと見守る

ベビーカー使用者や周囲の方は、「子どもの安全」「子育てしやすい環境づくり」のため、お互いに配慮や理解をお願いします。

混雑時の乗降の際や乗車中などには、利用者どうし快適に利用できるよう、お互い声をかけ合いましょう!

周囲の方は

- ベビーカー使用者には、温かい気持ちを持って接し、見守りましょう。
- バスの乗降時など、手助けを申し出てみましょう。

ベビーカーをご使用の方へ

- ベビーカーは、折りたたまずに乗車することができます。(※)
- 乗車にベビーカーを固定するため、協力をお願いします。
- 乗降に少々時間がかかるたまに、スペースを少し広めに利用することができます。
- 走行環境によっては、折りたたみ、乗車でのご乗車をお願いする場合があります。
- 周囲の方との接觸や通行の妨げなど、ベビーカーの操作には気をつけましょう。
- 困っているときは遠慮せず手助けをお願いしてみましょう。

【公共交通機関におけるベビーカー利用に関する協議会】は子育てしやすい環境づくりを目指しています。

国土交通省は平成26年3月、学識経験者や鉄道会社、子育て支援団体などと協議し、公共交通機関でのベビーカーの安全で快適な利用を進めるために、「ベビーカー利用にあたってのお願い」と統一的なマークを決めて、広く呼びかけていくことにしました。子育てを社会全体で見守るためにも、こうした考え方の周知を広げ、ベビーカーを使う人も、周囲の人も、お互いに理解を深めていくことが大切です。

国土交通省
での検討

